

「備後に学ぶ地域の課題」

平成 30 年度実施報告

共同利用センター 鶴崎 健一

本学では、地域に貢献できる人材を輩出するために、共通教育科目の教養教育科目群として「F 群（地域学）」を設置している。平成 27 年度から「備後に学ぶ地域の課題」という科目を設置した。設置から 4 年目の実施内容について報告する。

平成 30 年度の実施概要

平成 30 年度も前年に引き続き、福山市環境経済局環境保全課に協力いただき、芦田川をテーマにした授業を展開した（参考資料 1）。講師も昨年に引き続き福山市環境経済局環境保全課 卜部憲登課長にお願いし、鶴崎と企画・実施した。

今年度も、昨年度までと同様、福山市が企画するふくやま環境大学の芦田川見学ツアー（10 月 20 日）に参加した。それまでの 3 回の講義で、目的や授業展開の方法の説明、卜部憲登氏による芦田川の現状の説明を行い、その後、3 チームに分かれ、各グループで課題の検討を行った。

10 月 20 日は、9 時 00 分に福山駅を出発し、堂々公園に向かった。10 時前に到着し、堂々公園近くの芦田川支流堂々川の中に棲息する生物の採集を行なった（写真 1）。堂々川でも上流に位置する場所での採集であったこともあり、多くの種類の生物が採集できた。季節柄少し寒さのある中であつたが、天候にも恵まれ、学生も興味を持って採集に取り組み、多くの生物が出てきた結果をみて河川の実態を知ることができたようだ（写真 2）。11 時頃から堂々川で自然保護活動を行っている堂々川ホテル同好会事務局長の土肥徳之氏から「堂々川ホテル同好会の活動について」の講演を聞いた（写真 3）。昼食後、芦田川「見る視る館」に移動し、河川の浄化施設の見学、簡易水質検査の実習を行った（写真 4）。実習の後には、ふくやま環境大学の方も交えて、4 つのグループに分かれ芦田川の環境改善などについてグループ討論を行った。それぞれのグループから報告を行い、受講した学生も発表を行った。15 時 30 分に福山駅に戻り、解散した。

その後の講義やグループワークは、7 号館 2 階プロジェクトラウンジで行った。事前に決めた 3 つのグループ（「ASHIDAGAWA IS ANBIRIBABO!」、「本当の芦田川を知り隊」、「Team 芦田川ラリーズ」）に分かれて企画を検討してもらい、企画案を作成した（写真 5）。

「ASHIDAGAWA IS ANBIRIBABO!」は小学生を対象とした資料と関連のクイズで川について学習する「川について学ぼう」企画、「本当の芦田川を知り隊」はバラ祭りなど地域イベントで行う「芦田川検定」企画、「Team 芦田川ラリーズ」は芦田川流域で行うウォークラリーイベントとして「芦田川 RALLY」企画であった。11 月 21 日に、授業内でそれぞれのグループの企画案について発表を行った（写真 6）。また、今年度は「松永に学ぶ産業と文化」の発表会と合同で 12 月 15 日（土）に「松永はき



写真 1 堂々川での生物採集



写真 2 堂々川で採集した生物



写真 3 土肥氏によるホテル同好会の説明

もの資料館」(あしあとスクエア)で公開成果発表会も実施した。

講義終了後には、Cerezoを通じて、レポート課題、授業アンケートを行った。

平成30年度の成果・課題について 受講者について

平成30年度を受講生は、昨年度と同様、最終的には6名であった。初回には18名の出席があったが、10月20日(土)にフィールドワークがあることが分かると、他の授業と重複するなどの理由で受講辞退が多く出てしまった。シラバスにはフィールドワークについても記載していたのだが、十分に周知できておらず、残念な結果となった。受講の際にシラバスの確認の徹底、および、履修希望者への情報提供の重要性を感じた。一方で、少人数であったため、昨年同様、グループワークの指導はしやすい規模となり、学生同士の活発な意見交換もできる環境で授業を実施することができた。

成果物の作成・発表について

成果物については、昨年同様、企画案を作るところまでを課題とした。完成度においても、昨年度同様、比較的高い完成度のものを作成することができた。特に、今回は「松永に学ぶ産業と文化」と公開合同発表会を実施することを企画したことが、学生にとってもよい影響を与えたように思う。当初、この合同発表会はシラバス上では授業外であるため成績評価に加えない予定で考えていたが、全員が参加を表明したので公開発表用のスライド作りや発表の練習のために授業日を追加し、授業の一環とすることができた。公開発表では、聴衆者から質問や意見も多くいただき、学生にとっても良い勉強となったと考えられる。学生から提出されたレポートの中には、『(公開発表会で発表してみた結果：著者追記)改善したほうがいいと思ったことは、2つあります。1つめは、発表の仕方です。資料と同じことをそのまま伝えていたのがほとんどだったので、スライドをもう少しわかりやすく作り、発表をすれば良かったなと思いました。また、もう少し楽しく発表できたらよかったですと思いました。クイズをした時などそのままクイズを読んで、少ししたら答えを言うのではなく、手を挙げてもらうなど工夫をすれば良かったなと思いました。2つ目は、質問されたことに対してほとんど答えることができなかつたので、もっと詳しく調べておくべきだったと思いました。何を聞かれても答えられるように、ここは大丈夫だろうと思っただころでもしっかり調べるように次からしていこうと思います。』、『企画書・成果物作成において改善したほうが良かった点は、そのイベントがどう芦田川のイメージアップにつながるのかを、もっとアピールした方が良かったのかなと思います。はきもの資料館で発表したときにいろいろな質問がきたので、やはり客観的にみると納得がしづらい部分もあったのかなと思いました。質問の中でなぜ堂々川でしようということに

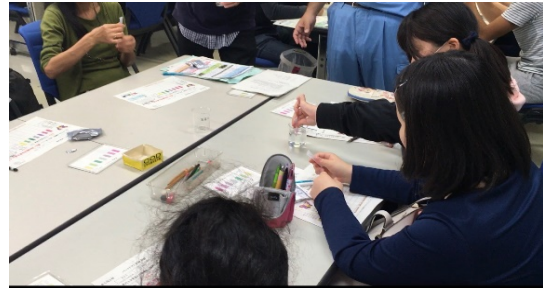
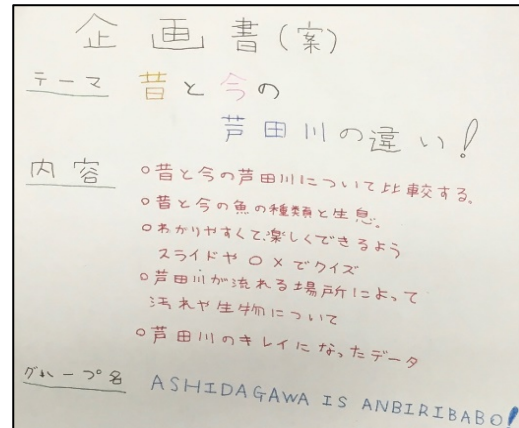
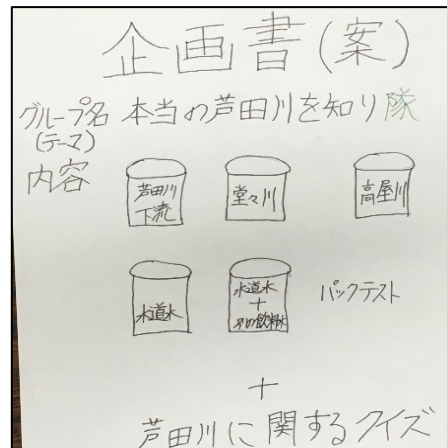


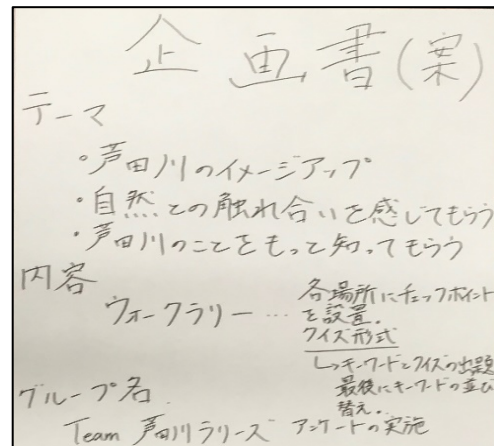
写真4 芦田川「見る見る館」でのパックテスト体験



ASHIDAGAWA IS ANBIRIBABO!



本当の芦田川を知り隊



Team 芦田川ラリーズ

写真5 企画書(案)

なったのか、という質問があつて、その時にたしかに堂々川と芦田川は細かくみると違う川だし、堂々川で行うイベントがどう芦田川のイメージアップにつながるのかが分かりにくいかなと思ひました。』という記載もあり、受講生の成長に寄与できる取り組みとなつたと思う。

各企画案がもう少し踏み込んだ内容に仕上げることができれば、芦田川のイメージアップに繋げることが可能ではないかと思われる。教養科目の性質上、継続的な取り組みには限度があると思われるが、地域貢献できる可能性が高いと考える。

学生の授業評価

授業評価アンケートによる本講義の満足度は、概ね良好であった（満足 3 名・ほぼ満足 2 名:1 名未提出）。

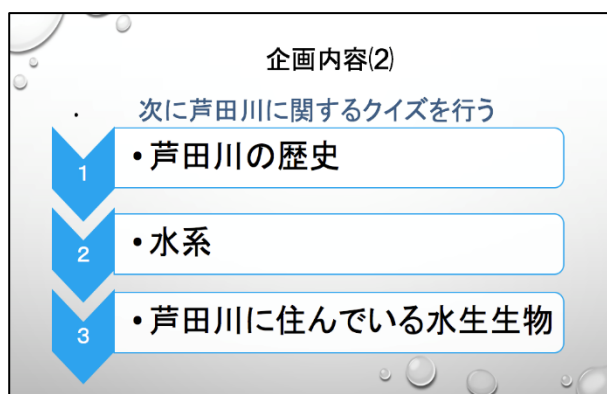
授業の適切性については、「比較的、簡単だった」と「比較的、難しかった」が 1 名ずつ、「適切であった」が 3 名であり、概ね学生にとって適切と思える内容であったと考えられる。

また、学生の感想（参考資料 3）には、昨年までと同様、芦田川に関する知識が習得できただけでなく、グループワークでの積極性、主体性がいかに重要かを理解できたとの記載があり、この点については、本講義の到達目標が達成できたと思う。

平成 30 年度は、福山市環境経済局環境保全課長の卜部憲登氏の献身的なご協力によって、無事に授業を展開することができた。また、福山市環境経済局環境保全課には、4 年続けて協力いただき、非常に感謝している。平成 31 年度も続けて、「芦田川のイメージアップ」を題材として実施する予定である。より充実した授業内容を目指し、学生の地域貢献の意識を高める一助となるようにしたい。



ASHIDAGAWA IS ANBIRIBABO!



本当の芦田川を知り隊



Team 芦田川ラリーズ

写真 6 企画説明用スライド（一部）

（参考資料 1）シラバスの概要

講義名	備後に学ぶ地域の課題		
開講期・曜日・時限	後期・水曜・5時限 他	単位数	1 単位
授業のねらい、概要	備後地域の様々な課題を題材に、学外調査やグループワークなどを行なうことで地域社会への貢献のあり方を考えていきます。本年度は、福山市環境経済局環境部環境保全課の協力のもとに、福山市を流れる芦田川について考えます。福山市では芦田川の水質について、報道等でワーストワンというイメージ先行で取り上げられているため、芦田川本来の良さが伝わっていないという問題を抱えています。そのイメージを払拭するための施策（アイデア）を考えます。		
授業（学習）の到達目標	地域を育み、地域に貢献する精神を身に付けることを目指します。グループワークや学外活動を通じて、コミュニケーション能力を身に付けることを目指します。		

(参考資料2) 各回の授業内容

授業回	授業内容
第1回 9月26日	ガイダンス（本講義の目的・進め方などの説明） 福山市を流れる芦田川の現状について
第2回 10月3日	芦田川のイメージアップのための施策を考える1 成果物（企画書）の作成作業の準備・グループ分け
第3回 10月7日	芦田川のイメージアップのための施策を考える2 成果物（企画書）の構想
第4～6回 10月11日	ふくやま環境大学（芦田川の実態を知る） 堂々川での生物採集・ホタル同好会の活動見学・芦田川見る館での水質調査体験
第7回 10月18日	芦田川のイメージアップのための施策を考える3：成果物の構想 ふくやま環境大学での知識の整理・課題の洗い出し・課題解決方法の検討
第8回 10月25日	芦田川のイメージアップのための施策を考える4：成果物の作成 施策の具体的な検討・成果物の作成
第9回 11月21日	芦田川のイメージアップのための施策を考える5：成果発表と討論 グループ発表・レポート課題説明
第10回 12月15日	はきもの資料館での公開成果発表会：成果発表と討論 グループ発表・ふりかえり

(参考資料3) 学生の感想、意見

<p>フィールドワークをすることで芦田川の現在の水質が今どのような状態であるかどうかがよく分かってとても良かった。また、事前に芦田川の説明をしていたため芦田川に関する知識が深まった。そして、その後のグループ発表で全体に一体感がでてとても良かった。初めは授業についていけるかどうか不安だったが、今では、この授業を受けて良かったと思う。</p>
<p>始めはいろんな面で不安なことがありましたが、成果報告会をし終えたときには達成感があって最後までして良かったなあと感じました。来年、福山に関する授業があるなら、学びたいと思います。</p>
<p>芦田川について知ることができた。普段は考えたり、関わりのないことを勉強することができたのでよかったです。</p>
<p>今回は芦田川のイメージアップ企画を考えるということで今まであまり考えたことがなかった内容なので、いい経験になったし、実際にフィールドワークで堂々川に行ったのも、自分の中でいい経験になりました。将来役所関係に就職したいと考えているので、現状を知って解決策を考えるという点では非常に有意義な科目でした。</p>
<p>今回の授業を受け、福山が抱える問題を探求することができた。芦田川の水質が改善できていることを知ることができたからである。また、普段の暮らしからではわからなかった福山を見つけることができた。</p>